

# 平成25年度全国学力・学習状況調査 朝来市の小学6年生と中学3年生の 学力と学習状況の分析結果

## 調査の概要

この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的です。今年度は、悉皆調査として文部科学省によりすべての小・中学校が対象としてこの調査が実施されました。



## 調査の内容

- 教科に関する調査  
国語、算数・数学  
「知識」に関する調査  
「活用」に関する調査
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査  
児童生徒に対する調査  
学校に対する調査

## 学力調査の結果

■ **小学生**      **全国・県平均と同様**

■ **中学生**      **全国・県平均上回る**

## 小学生各教科の結果

### 国語

知識問題…正答率は、全国や県平均と同様

活用問題…正答率は、全国や県平均と同様

漢字の読み書きやことわざなど、知識面では定着をしています。課題は、「文」に関する知識・活用や、自分の考えを書くことで、これらは、昨年度の本市児童の調査結果と似通った傾向でした。記述形式の問題に加え、短答式の問題において、必要な事柄を整理し簡潔にまとめることを苦手としている児童が多くみられました。

### よい傾向の内容

- 漢字を書くこと
- ことわざの意味
- 働きが類似する接続語の選択

### 課題のある内容

- 接続語を使って文を分けて書くこと
- 広告を読み、編集の特徴を捉えること
- 目的や意図に応じ、文を簡潔にまとめて書くこと

### 指導改善のポイント

□第1・2学年段階において、文が句点によって区切られることを十分定着させる指導を重視する。

□日常生活における様々なメディアの情報の内容や形式の両面に注目し、編集の特徴を捉えることができるように指導する。



□自分の立場や結論を明確にした上で全体の構成を工夫するとともに、事実と感想、意見を区別して整理することができるようにする。  
そのための指導として、宣誓文の一部を様々な表現技法で書き換えて表現の特徴について捉えるようにしたり、1分間スピーチなどを計画的に行ったりする活動が考えられる。

□目的や意図に応じ、文と文との意味のつながりを考えながら、複数の文を1文に統合するなどして内容を簡潔に書く力を向上させる。  
事実や感想、意見などのそれぞれの意味を変えないように1文に統合するよう指導することが効果的である。

□目的に応じて本や文章を読み、相手意識を明確にして推薦文を書く力を向上させる。そのためには、自分の目的とともに、推薦する相手の目的も考慮し、どのような本や文章を取り上げるのか、取り上げた本や文章の何を主に推薦するのかなどを明確にすることができるよう指導することが大切である。

## 算数

知識問題…正答率は、全国や県平均と同様  
活用問題…正答率は、全国や県平均と同様

知識に関する問題から四則計算の力が定着していることがうかがえます。  
特に、括弧を使った加法・減法が混合した計算、分数×整数の計算については高い正答率でした。

しかし、「量と測定」の領域では、各児童により定着度に差が見られました。  
活用に関する問題では、昨年度の朝来市児童の調査結果より正答率は高くなっていますが、文章を読み取り、比例関係や割合など数学的な考え方をを用いて記述したりすることに課題があります。

### よい傾向の内容

- 小数や分数、括弧を含んだ式を計算すること
- 曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を用いること
- 示された情報の意味を解釈しものの位置を特定すること

### 課題のある内容

- 説明を読み取り、情報を取り出すこと
- 単位量当たりで考えること
- 記述式の問題に解答すること

### 指導改善のポイント

- 問題の場面を図や絵に表し数量の関係を捉える学習活動の充実
- 百分率の意味や割合の考えのよさを理解できるようにする指導の重視
- 面積についての感覚を豊かにする指導の重視
- 筋道を立てて考え、記述する力や活用する力を育成する学習活動の重視

## 小学6年生の児童が苦手とした問題（国語：活用に関する問題）

**3**

次の【文章の一部】は、六年生の高島さんが五年生のときから続けている放送委員の仕事について書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の一部】

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

(1) 一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の「だから」に続く七文字を書きましよう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

※解答は、解答用紙に書きましよう。

新しく委員になった五年生は、（中略）（、）だから、（中略）（、）

（中略）（、） 教えてあげたいと思った。

### 中学生各教科の結果

#### 国語

知識問題…正答率は、全国や県平均よりも高い  
活用問題…正答率は、全国や県平均よりも高い

すべての問題で全国・県平均を上回ることと結果となりました。  
活用に関する問題については、2年連続で全ての問題で全国・県平均を上回りました。  
記述式の問題の正答率も上昇しており、力が身についてきています。  
また、無回答率もかなり低い結果でした。

#### よい傾向の内容

- 文脈の中における語句の意味を理解すること
- 描写の効果を考え、内容を理解すること
- 段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉えること手紙の形式を理解して書くこと



### 課題のある内容

- 伝えたい事柄が明確になるように情報を適切に取り上げて書くこと
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと
- 「謙譲語」「修飾・被修飾の関係」「隠喩」等の意味に関すること比喩等の表現の仕方を理解すること

### 指導改善のポイント

- 報告をする文章を書く際には、目的に応じて伝えたい事柄を明確にし、それに必要な情報を文章の展開に即して適切に取り上げる必要がある。新聞や他の文章からよりよい文章を取り上げ、書き方の工夫の仕方など学習活動の中に取り入れて指導をしていく。
- 漢字・語句・文法・表現技法は、文章の中で活用させることや反復学習をが大切である。同音の漢字に関しては、意味をしっかりと押さえさせた上で覚えていく必要がある。具体的な表現から「比喩」などの多様な表現技法を継続的に指導する。

## 数学

知識問題…正答率は、全国や県平均と同様

活用問題…正答率は、全国や県平均と同様

正・負の数の計算、文字式の計算や連立方程式の立式解法など数と式の領域、数量図形領域の作図や展開図については、高い定着率でした。

しかし事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することや関数の意味の理解などに課題があります。

また、記述式の問題になると正答率が下がり、無回答率の割合が高くなっています。

### よい傾向の内容

- 正負の数の計算や一元一次方程式を解くこと
- 二元一次方程式の意味や具体的事象から連立二元一次方程式を立式すること
- 平面図形の拡大図の作図や見取図、投影図から空間図形を読み取ること

### 課題のある内容

- 数量の関係や法則を文字式で表すこと
- 関数の意味や一次関数の変化の割合を求めること
- 提示された資料の特徴を数学的に説明すること

### 指導改善のポイント

- 生徒に自分のことばで、説明する「発表や説明・教え合い等」の言語活動の場면을多く取り入れる。
- 関連のある学習内容について、様々な角度から調べて、関係性に気づかせる学習展開を重視する。

□生徒の思考が具体から抽象に移行しやすいように具体物やICTの活用を多く取り入れる。

□問題解決の方法や手順を数学的な表現を用い説明する学習活動を重視する。

□日常の事象を図形に関連付け、図形の性質を問題解決に活かす学習の重視

□数学的な用語は、その意味や活用法を反復学習をして確実に定着させる。

## 中学3年生の生徒が苦手とした問題（数学：活用に関する問題）

1

優子さんは、運動不足のお父さんにウォーキングを勧めようと考えています。そこでウォーキングについて調べたことを、次のようにまとめました。

<歩くペースの決め方>

① ウォーキングを行う際の目標心拍数を、次の式で決めます。

$$\left( \begin{array}{c} \text{目標} \\ \text{心拍数} \end{array} \right) = 88 - 0.4 \times (\text{年齢}) + 0.6 \times \left( \begin{array}{c} \text{安静時} \\ \text{心拍数} \end{array} \right)$$

「安静時心拍数」は、安静にした状態で、手首の脈拍数を1分間数えて求めます。

② ウォーキング中に安全なところで立ち止まり、1分間の脈拍数を数えます。

運動中の脈拍数が「目標心拍数」を超えないようにすることがポイントです。



【注意】 目標心拍数はあくまでも目安です。実際に運動を行う場合は、その日の体調や気分にも十分注意してください。

(3) 優子さんは、年齢が高くなると目標心拍数がどう変わるかを調べたいと思い、安静時心拍数が年齢によらず一定であるとして考えてみました。

このように考えると、目標心拍数は年齢とともに変わることになります。この変わり方について、下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの理由を、前ページの目標心拍数を求める式をもとに説明しなさい。

ア 年齢が高くなると、目標心拍数は大きくなる。

イ 年齢が高くなると、目標心拍数は小さくなる。

## 基本的な生活習慣について

### ■就寝時間のリズムが整っている児童生徒が多い

- 小学生：ほとんどの児童が、起床時刻、就寝時刻が決まっている  
8時間以上の睡眠をとっている児童（8割）
- 中学生：就寝時刻が午後11時～午前0時が半数  
7～8時間の睡眠時間の生徒が最も多い
- 就寝時刻が遅い児童生徒の正答率は低く、学習への悪影響につながっている

### ■朝食は、ほとんどの児童生徒が毎日とっている

- 朝食は、ほとんどの児童生徒が毎日とっている。
- 毎日朝食を食べ、毎日同じ時刻に就寝・起床している児童生徒は正答率が高い
- 生活のリズムを崩さずに、規則正しい生活をするのが、学力向上につながっている

### ■ゲームやインターネットをする児童生徒が増えている

- 携帯電話・スマートフォンを持っていない児童生徒は、6割で県・全国の割合より2割以上高く、持ってない児童生徒の正答率が高い
- 携帯電話・スマートフォンを持っている児童生徒は、4割が家の人との約束を守って使っている
- 2時間以上すると回答した児童の正答率は低い

## 学習習慣について

### 学習時間

- 小学生で1～2時間が最も多い
- 中学生では2時間以上と答えた生徒が3割

### 家庭学習

- 宿題は、ほとんどの児童生徒が確実にやり遂げている
- 6割の児童、5割の生徒が自分で学習の計画を立てて勉強している
- 予習、復習も含め、自分で目標や計画を立て学習する児童生徒の正答率が高い
- 宿題以外の予習や復習をしている児童・生徒は半数以下である



## 人・地域との係わりについて

- 児童生徒の8～9割が夕食を家の人と一緒に食べている
- 児童生徒の6～7割が家の人(兄弟姉妹は除く)と学校での出来事について話をしている
- よく話をしている児童生徒ほど正答率が高い
- 地域とのかかわりが深く、県、全国平均を大きく上回っている  
「地域の行事に参加している」は特に高く、9割の児童、7割の生徒が参加している。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」では6割の児童生徒が関心を持っている。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」については、全国では、低かったが朝来市の児童生徒は高い

## 児童生徒の意識について

### 【9割以上が次のように答えている】

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」
- 「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」
- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」

### 【7～8割が次のように答えている】

- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」
- 「自分には、よいところがあると思う」
- 「将来の夢や目標を持っている」

朝来市では、ほとんどの児童生徒が、何事も前向きに考えて取り組んでいるとの結果でした

## 今後に向けて

今回の調査結果の分析から、朝来市の児童生徒の学力の定着については、小・中学校ともに改善傾向が見られています。昨年度の課題分析をもとに各校における授業改善の取組や家庭・地域の協力が成果に結びついたものと考えられます。

全国的に、見通し・振り返り学習活動（授業冒頭で、めあて・ねらいを明確にし、授業の最後に学習内容を振り返る活動）を積極的に行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られています。朝来市においてもこのような具体的な



授業改善を含め、児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善を図るため、従来から取り組んできた小中連携推進事業に加え、平成25年度から新たに、小小連携推進事業を実施しています。

これは、児童生徒の発達段階に合わせ、より適切で丁寧な指導を行うための取組です。

平成26年度の本調査は、4月22日に実施されます。現在の取組成果が具体的に表れることを期待するとともに、今後も教育に関する検証改善サイクルを行い、改善状況等の把握と成果をもとにしつつ新たな課題を踏まえた取組を行っていきます。

## 問題の回答

小学校国語 知識に関する問題

文の構成を捉える

【解答】

(そう)にしていた。だから、(ほく)は、これまで

中学校数学 活用に関する問題

事象の数学的な解釈と判断(ウォーキング)

【解答】

イ 理由(例)安静時心拍数が年齢によらず一定なので、年齢を $x$ 、目標心拍数を $y$ としたとき、 $y$ は $x$ の一次関数であり、 $x$ の係数が負であるから、年齢が高くなると目標心拍数はいつも小さくなる。

お問い合わせ  
朝来市教育委員会  
学校教育課  
677-2115